

平成12年度「地方自治体とのブロック別連絡会議」を開催

今年度の北海道地区のブロック会議は、去る1月22日、北海道国際センター（札幌）で開催されました。18の自治体と関係団体から32名が参加されました。

冒頭、東京から駆けつけた国際協力事業団国内事業部長の今津 武から「JICAの国内連携事業について」のテーマでお話があり、早速何人かの参加者から、自治体としての取組みやJICAに期待するものについての発言が相次ぎました。続いて、当センターの室澤業務課長から、「北海道におけるJICAと地方自治体との連携事業等」について説明するなかで、「今後地方自治体から途上国に技術移転できる研修があれば、是非JICAに相談して欲しい」旨お願いがありました。

今回の主要プログラムである地方自治体の取り組み事例紹介では、それぞれの地域の特性を生かして国際協力に取り組んでいる、3つの都市から講師をお招きしました。各講師は、パソコンやOHP、ペーパー資料など、豊富な材料を駆使して熱のある講演をされました。

トップは遠く九州の熊本県水俣市から、同市の企画調整室次長の水田 利博氏と、北九州市にあるJICA九州国際センターの阿久津職員。水俣市としての取組みと、多くの市民の、「公害を発生させない」との強い決意が、JICAの集団研修に結びついたことを紹介。続いて滝川市の企画課課長補佐の沼本 茂樹氏から、JICAの農業分野の研修が、地域の活性化にいかに関与しているかの紹介と、今後の展望をいくつかの課題に分けて述べられました。最後は釧路市の環境政策課課

長補佐であり、同時に釧路国際ウェットランドセンター主幹でもある新庄 久志氏から、釧路湿原保護の歴史と、エコツアーなど環境教育に果たす釧路湿原の役割、更にはマレーシアへの研修コース開始の事例紹介がありました。

講演への質疑応答では、限られた時

間の中で、人と資金の確保についての質問が目立ちました。

プログラムの最後に、当センターの小森 毅所長から、素晴らしいブロック会議が出来たことへのお礼と、今後JICAをおおいに利用して欲しい旨述べて閉会となりました。

NGOと、こんにちは！ NGO屋台村 開催

今年度で2回目の標記事業が、去る1月20日（土）、21日（日）の両日、昨年夏にオープンしたばかりの、札幌市生涯学習総合センター「ちえりあ」を会場に開催されました。ちなみに、北海道のボランティア発祥活動ともいえる「遠友夜学校」の展示場管理もこの「ちえりあ」があたっているとのことでした。

「屋台村」の主催は（財）札幌国際プラザで、北海道国際センターは共催団体として参加しました。今回のテーマは、“MAKE THE WORLD HAPPY” 「“平和の世紀”は、私たちがつくる」です。20日午後から盛り沢山のプログラムが組まれ、各分野で活動している日本各地のNGO10団体も駆け付け、北海道内のNGO11団体を併せて21団体が出展という盛況でした。

主催者を代表して、（財）札幌国際プラザ理事長の桂 信雄氏が挨拶を寄せられ、プログラム冒頭では、同財団法人の佐藤専務理事と、当センター小森所長が挨拶して2日間にわたるプログラムが始まりました。

当センターでは、2日目の21日曜日の10時30分から2時間にわたって、JICA本部の今津 武国内事業部長を講師として迎えて、「知っていますか？ ODAとNGOの連携」のタイトルで講演会を行ないました。講演会場には50名を越える市民が詰め掛け、熱心にメモをとったりし、活発な質問や意見が述べられました。NGOとの連携という問題は、外務省もJICAも近年、重要な課題として取り組んでおり、極めて時宜を得た話題となりました。